

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

下記の3つを総合して評価を行いました。

- ① 平常点(主にコメントカードの提出状況とその内容=質)
- ② 中間レポートの提出状況とその内容
- ③ 最終試験

授業の第一回目に示した本講義で学んでほしいことについて最終試験において問うた。

授業で学んだ基本的な考え方を踏まえながら、自分の教育観を自分なりの表現で述べているかどうか。

授業参加度、中間レポート、最終レポートあるいはテストによる総合点。

授業参加度、模擬授業(模擬授業後の考察も含む)、レポートあるいはテストによる総合点。

生活科の目標や内容の理解は、自身で作成させた単元構成に現れてくるので、1回目は4人グループで1つの内容を、2回目は3人グループで1つの内容の単元構成を作成させ、単元構成のポイントを理解させた上で、3回目は一人で全員同じ内容の単元の構成案を時間を区切って作成させた。その最後の単元構成を成績評価の対象とした。単元の内容を理解できているか、生活科の趣旨を踏まえているか、一人一人の子どもへの配慮ができているか等の観点から評価した。その後、朱書きをして、各学生に返却した。

毎回の受講態度(コメントシートの内容も含む)、最終レポートの論理性、多様な視点、オリジナリティを重視して評価を出した。

授業態度、出席状況、レポートの完成度。

コメントカードの記述をもとに学生の理解度と思考力を評価する。また、中間レポートと学期末レポートの内容をもとに、講義の目標に対する学生の到達度を評価する。

授業出席率、中間テスト、期末レポート提出、コメント内容を総合的に評価

- ・レポート2つ。70%。
- ・リアクションペーパー、グループワーク・・・30%。

- (1)毎回の授業への参加態度:40%
 - (2)授業における成果物(40%)＋課題レポート(20%):60%
- (1)については、「C-Learning」における学生のコメントの質と量を見て、日頃の授業にどの程度参加しているか、また、授業内容をどの程度理解しているのかを判断し、評価している。
- (2)については、授業で求めた成果物(レポートや作品)を、「科目の趣旨の理解(記述内容)」「作品としての完成度(適切な量、体裁、写真等)」の観点から総合的に評価している。

シラバスに提示してある通り、中間チェック・期末レポート・毎授業の提出物(リフレクションペーパー)を厳正に数値で評価し、最終成績評価として提出しています。

定期試験(記述式)、授業への取り組み(観察、毎回のリフレクションペーパー点検)、提出物(授業づくり実践におけるもの)、出席をそれぞれ点数化し、授業づくりの理論や指導法に関する理解力を総合的に評価した。

期末試験を実施しその成績(70%)と授業内レポートおよび授業態度(30%)によって評価した。

【M1生活科教育A】

・毎時間の自分の考えの深まりや広がりを記述したノート(A4表裏1枚)を回収して評価し、それを点数化して累積した。(1時間のねらいに到達:B ねらい以上:A 到達せず:C)
・定期試験において、15回分の授業についてどの程度理解し、修得したか、記述から評価した。
《全体成績=15回分のノートの点数の累積(7割)+定期試験の点数(3割)》

【S2生活科研究A I】

・毎時間の自分の考えの深まりや広がりを記述したノート(A4表裏1枚)を回収して評価し、それを点数化して累積した。(1時間のねらいに到達:B ねらい以上:A 到達せず:C)
《全体成績=15回分のノートの点数の累積》

出席した授業におけるリアクションペーパーでの感想意見および期末レポートから評価を行っています。リアクションペーパーでは、自分の体験と結びつけた感想や意見、独自に気づいたことを書いているかを評価しています。期末レポートでは、学んだ知見と実際の体験が結びつき、将来の活用の示唆を得られているかを基準に評価しました。

講義中に指示した提出物と授業への参加意欲や態度及び定期試験の結果を踏まえ、総合的に評価を行った。

授業毎のミニレポートおよび期末テスト

毎回の授業で提出されたレポートについて、評価を行った。評価の基準は、授業で学んだ内容(インプット)をもとに、自分で考えたことを書く(アウトプット)に重点を置いて評価を行った。その旨、学生にも伝えてあり、本授業においてレポートを書く際には、授業での学びとそれについて考えたことが読み手に伝わるように記入することと指導した。

授業の最後に、各自で制作した技法集(本)を提出してもらっていますが、この中に収められた作品の内容、技法集(本)としてのまとめ方、授業中の制作に取り組むようす等から成績評価を点けています。

評価の観点項目に即して、授業内容をどの程度理解できているか。
論理的な思考、記述がなされているか。
出席状況(小レポートの提出状況、記述内容を参考に)を加味。

中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価した。

【教育の社会的研究】

試験:40%(知識・理解)、課題レポート:40%(20%×2回、思考・判断)、グループワークの成果:20%(関心・意欲)、出欠状況:欠席1回につき2%減点

【E選 世界の大学とキャリア形成】

期末レポート:40%(知識・理解・思考・判断)、中間レポート:20%(思考・判断)、プレゼンテーション:20%(思考・判断)

小レポート:10%(知識・理解)、グループワークの成果:10%(関心・意欲)、出欠状況:欠席1回につき2%減点

- ①出席、授業態度
- ②理解(活動の様子や・毎回提出の感想カード)
- ③提出物(作品・観察カード等)

出席状況、受講態度、レポート(50%)試験(50%)

提出されたコメントシートの記述内容、授業における反応(発言、グループ活動の様子)、最終課題を評価資料とし、おおむねシラバスに記載した配点にしたがって、まずまず目標を達成できている学生をAとして評価した。授業の出席回数にばらつきがあるものやコメントシートの記載の質に不足が見られるものなどは、BまたはCとし、反対に授業中の反応やコメントシートの内容記述に優れ、出席も適切になされているものは、Sと評価した。なお、Sは、全体の10%程度に収めている。

<成績評価の方法>

1 授業、発表、論議への参加状況 リアクションペーパー（4回×10%）	40%
2 課題レポート（2回×10%）	20%
3 定期試験	40%

により総合的に評価した。

- 1) 提出物(課題3点)。すべての課題の提出が期末試験受験の条件として評価。
- 2) コメントカードへの記入。
- 3) 試験。手書きメモのみ持ち込み可とし、持ち込み資料の事前準備の有無を試験の点数に加味して評価した。

模擬授業における指導と評価(30%)→ロールプレイにおける授業者としてのふるまいを評価した。
授業中の参加態度(20%)→主にロールプレイにおける児童役としての振舞いを評価した。また、発問に対する反応、グループワークの発表者等の動きをその都度記録して点数化した。
授業内で課すレポート(50%)→生活科の本質と教科の独自性にかんする講義内容を踏まえて、課題を設定して複数回レポートを提出させた。それらの評価基準は課題への的確な回答・記述の方法・独創性及び発展性の3観点によって設定した。

レポート課題については、以下のような観点を踏まえて評価を行った。

- ・与えられたレポート課題の目的、問題に答えたものになっているか。
- ・論拠となるデータや資料の信頼性や、データ、資料に論拠との関連性はあるか。
- ・自身が立てた問いに対して、何が明らかになり、何が今後の課題となっているかがきちんと述べられているか。
- ・授業との関連性では、授業内容を理解して、答えているか。
- ・引用の仕方や、参考文献一覧の記載は適切であるか。
- ・誤字・脱字はないか。

- ①授業内課題および②期末レポート課題の内容を総合的に評価した。
- ①授業内課題の評価は、各技法の理解度をについて、学生たちが具体的に作成した授業計画の記述(技法別)をもとに評価した。十分な理解に基づく優れた案から不十分な理解や明らかな誤解などもあり、主に技法の理解の程度を評価した。
- ②期末レポート課題の評価は、学生たちが作成した指導計画案(総合)を評価した。こちらも①同様に、十分な理解に基づく適切な構成もあれば、明らかな誤解や不十分な内容もあり、総合的な理解と効果的な計画づくりの程度を総合的に評価した。

授業の態度、出席、グループの発表、レポートの提出、まとめのテストなど。